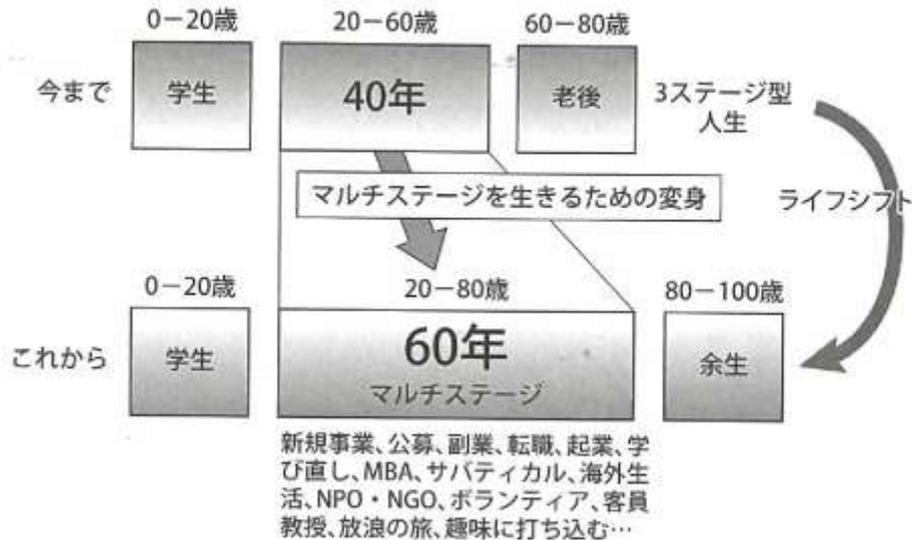


引用：徳岡晃一郎「40代からのライフシフト 実践ハンドブック 80歳までの現役時代の人生戦略」 東洋経済新報社

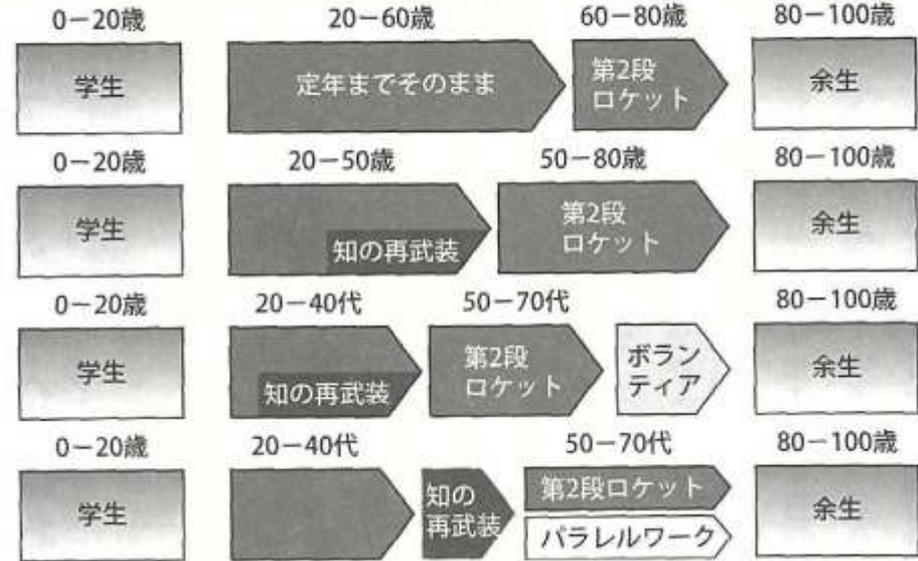
- 80歳まで現役となる人生100年時代においては、**ミドルシニア（45歳以上）以降、有意義な過ごし方ができるかがポイント**
- 65歳以降の自分の将来を見据えつつ、**人生100年時代の生き方モデルを次世代に示していく必要がある。**
- 常に**現年齢の10年後を見据えて学び続ける**ことが必要
「知の再武装 = 学び直し」をすることで強みや土俵を構築することができ、次の10年にはエネルギー力を落とすことなく活躍ができる。

■ 人生100年時代のライフシフトについて

図表2-1 80/60時代から、100/80時代へのシフト



図表2-2 80歳まで現役を保つマルチステージ型の人生パターン

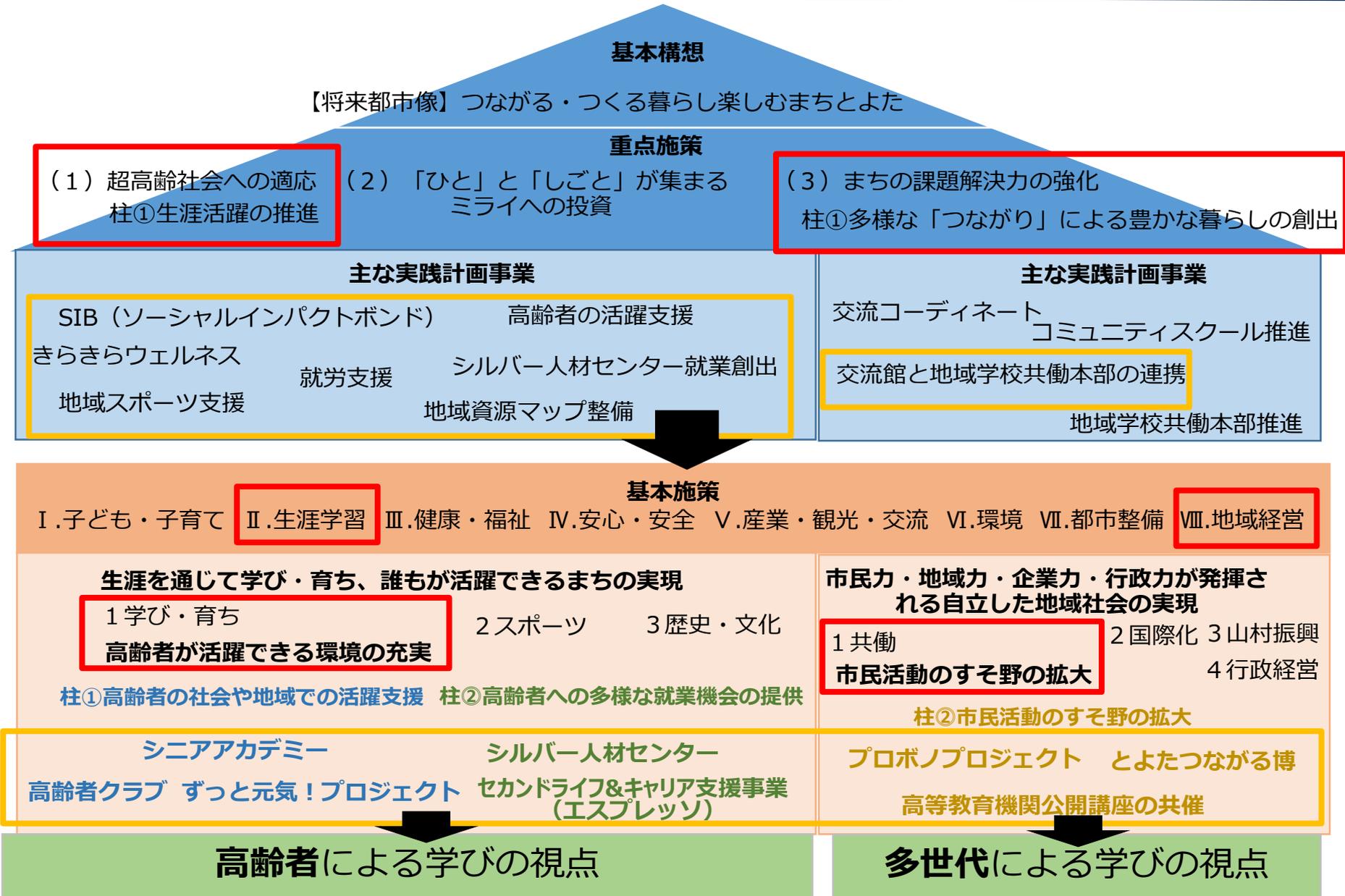


引用：徳岡晃一郎「40代からのライフシフト 実践ハンドブック 80歳までの現役時代の人生戦略」東洋経済新報社

- ・「人生80年時代」から「人生100年時代」へシフトしていく中、
仕事→学び直し（知の再武装）→仕事→世界を回る旅→NPO・NGO（社会貢献）
→資格取得→起業・・・などの多様な生き方が可能
- ・20歳～80歳の60年間に色々試して自分らしく生きていくことがこれからの生き方

人生100年時代において、「学びを繰り返しながら多様な生き方が豊かさ」につながる

■ 高齢者施策等に関する主な取組【全体像】



■ 高齢者施策の現状と問題意識

(1) 中長期的な視点

- 超高齢化社会において、高齢者の活躍は社会保障の増大等の観点からも外せない施策。
一方、対象者（高齢者）が増加していくなか、今後も高齢者世代への分配が増加していくことは世代間バランスが悪い。高齢者をマイナス要素ではなく市の大事な資源（経験や知恵の活用、地域や社会の担い手等）と転換することが必要である。
- 政府において、全世代型や多世代といった視点のもと政策検討が進められており、本市においても中長期的には高齢者を軸としながら多世代へと移行していく必要がある。

(2) 現状と問題意識

第8次総合計画における施策「高齢者が活躍できる環境の充実」

目指す姿	高齢者※が社会の中で能力を生かし、生きがいを感じて元気に活躍している。※60歳以上		
施策	柱①高齢者の社会や地域での活躍支援	柱②高齢者への多様な就業機会の提供	
実践事業	シニアアカデミー	就労支援事業	シルバー人材C

- 高齢者雇用安定法が改正（R3.4.1施行）され、70歳までの就業機会の確保が事業主への努力義務として規定
⇒**人生100年時代の生き方に対して、多様な選択肢（学び直し等）を支援することが必要ではないか**
- 60歳以上を対象にしているものの多くの受益者は70代であり、その多くは、社会参加意識が元々高い層
⇒**予備軍である中高齢者（45歳以上65歳未満）も対象に、機会の充実を図ることが必要ではないか**
- 超高齢社会への適応に向けて、福祉施策でも介護予防の観点から取組が進むなど、出口（趣味、活動、就労等）は、多様に広がりつつある。
⇒**生涯学習施策としては、入口（学び・プラットフォーム・場）の拡充が必要ではないか**

■ 高齢者活躍の事業マップ

人生100年を見据えた
学び

どの事業も
元気な70代
がメインの
参加者

福祉的観点が強まる
(介護予防等)

	45歳～	60代	70代	80歳～100歳
学 び	ここの充実を図る 必要がないか		シニアアカデミー	
健 康 スポーツ 交 流	職場以外へ 飛び出る (地域 or 社会)		きらきらウェルネス・元気アップ教室	
			ずっと元気！プロジェクト	
			地域スポーツクラブ	
		高齢者クラブ		
就 労		シルバー人材センター		
	セカンドライフ&キャリア支援 (エスプレッツ)			

<活躍の場や仕組み>

地域自治システム

学校共働本部

地域資源マップ

交流館

市民活動センター

平成30年1月26日第2回豊田市民生活活動審議会

会

■ 高齢者が活躍できる環境の充実【各主事業】

シニアアカデミー 【市民活動センター】

【概要】シニアを対象とした学び・相談・情報提供等を通じて、生きがい・仲間づくりや様々な市民活動の実践を促すことにより、シニア世代の社会や地域での活躍を支援するための事業

通年コース

1年間の学習や活動を通じて、仲間づくりとともに知識・技術等を習得し、社会や地域で活躍するためのきっかけをつくる年間講座（年33回の講義・実習）



R3実績

環境園芸学科：24名
健康増進学科：33名
文化工芸学科：29名
合計：86名



専門コース

今まで培ってきた豊富な知識や能力とシニア世代を必要としている様々な分野と活動をマッチングするために費用なスキルや心構えを身に付ける短期講座（年間2～3テーマで全8回程度 ※3か月程度）



R3実績

保育の補助員養成：14名
福祉の担い手（仕事）養成：6名



はじめの一步講座

何か始めたいが、一步を踏み出せない方を対象に、学びや体験を通じ、社会や地域で活躍するきっかけをつくるための単発講座（年間10回程度）



R3実績

「地域講師から教わるしめ縄づくり」ほか9講座
合計：123名



<課題など>

- ・受講者の多くが70歳以上となっており、そこから一步を踏み出すことが難しいと感じる人もいる。
- ・リピーターが多いため、参加者コミュニティが出来上がってしまっている。（新規が輪に入りづらい）
- ・学びから行動（活躍）につながっているか検証が必要

■ 高齢者が活躍できる環境の充実【各種事業】

シルバー人材センター【市民活躍支援課】

【概要】高齢者の生きがい就労支援として、地域社会に密着した臨時的かつ短期的な就業機会等を提供する機関
 【会員数】R3：2,121人 受注件数：6,596件

＜課題など＞

- ・多くは、60歳以上から加入できるものの、多くは70代以上の会員であり、定年退職後すぐに就労する先とはなっていない。
- ・高齢者雇用安定法の改正により、定年延長する流れになると会員獲得がこれまで以上に難しい状況。
- ・高齢の就労者が増えつつあり、草刈作業等において一層安全管理の徹底が必要。



セカンドライフ&キャリア支援事業（愛称：エスプレッソ）【産業労働課】

【概要】中高齢者の生きがいづくりから就労までを一体的に支援する事業（個別相談、セミナー）
 【内容】例：50代からはじめる修活セミナー（修活：セカンドライフを有意義にするためこれからやりたいことを考える）、2拠点で楽しむセカンドライフ、今からはじめるSNS活用セミナー など

＜課題など＞

- ・人材不足が深刻化する中、企業の高齢者に対する採用意欲は一定程度あるものの、既存の求人情報の中では、求人内容と希望職種のマッチングが難しいケースも多い。
- ・中高年者の就労意欲については、「関心はあるが、積極的な求職活動を行うほど差し迫った状況にはない層」がボリュームゾーンではないかと推測。



高齢者クラブ 【市民活躍支援課】

【概要】地域を基盤とした高齢者による組織

【内容】健康づくりや趣味・レクリエーション等の自身を豊かにする活動や環境美化・交通安全・世代間交流活動を通じた地域を豊かにする社会活動を実施

<課題など>

- ・定年延長等もあり、年々会員数の高齢化及び減少傾向にある。
- ・趣味・活動等の選択肢が広がっており、時代に合わせた運営のあり方が求められている。



セカンドライフガイドブック 【市民活躍支援課】

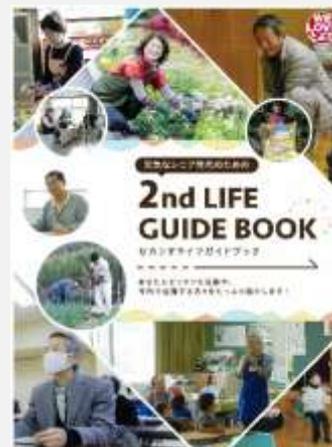
【概要】身近な地域の中にある新たなやりがいや楽しさを発見することができるような施設や窓口、そこで活躍する人材を紹介することで、市内でのシニアの活躍を支援し、生きがいや健康づくりの推進及び市民活動のすそ野の拡大につなげる

【内容】シニアの活躍の場の相談窓口を集約したセカンドライフチャートと市内の活躍者の体験談を紹介する冊子を作成

【実績】シニアアカデミー、

<課題など>

- ・公共施設等による配架、企業の退職者説明において活用しているが、活用用途を広げていく必要がある。



■ 市民活動のすそ野の拡大【各種事業】

プロボノプロジェクト（とよたプロボノシナジープロジェクト）【市民活動センター】

【概要】

共働によるまちづくりの担い手である市民活動団体の活動を促進するとともに、人生100年時代における市民の多様な生き方・働き方を支援するため、成果を明確にしたプロジェクトを通して、社会人によるボランティア（プロボノ）や公益活動の促進を実施

【内容】

6か月での伴走支援型による団体支援及びプロボノ参加者のキャリア開発

【実績】

(令和2年度)3団体とプロボノ14人を選定し、各団体が抱える課題解決(体操教室のオンライン対応・ビデオレターによる宣伝・研修マニュアルや備品リスト作成)及びプロボノ14人のキャリアモデル開発を実施

(令和3年度)4団体とプロボノ15人を選定し、各団体が抱える課題解決(カウンセリングシート作成・古着アップサイクル・予約システム作成・賛助会員増加)及びプロボノ15人のキャリアモデル開発を実施

<課題など>

- ・事業実施3年目となり、プロボノOBが増えつつあるが、OBのコミュニティ化及び市内のプロボノ文化を醸成していく必要がある。
- ・プロボノと団体の適切なマッチングを行うコーディネート体制の確立が必要である。
- ・企業等に対して、新たな働き方の一環としてプロボノが選択肢になるよう働きかけをする必要がある。



■ 市民活動のすそ野の拡大【各主事業】

とよたつながる博 【市民活動センター】

【概要】気軽に市民活動を知ることができる「市民活動の総合発信」の機会と、気軽に市民活動に参加できる機会を提供し、市民活動のすそ野拡大を目指す事業

【内容】体験プログラムと呼ばれる小規模の体験交流型イベントを沢山集めて一定期間に開催

【実績】(参加団体)R2:35団体、R3:45団体、(プログラム)R2:69種類、R3:97種類、(参加者)R2:941人、R3:1,758人

<課題など>

- ・プログラムをパッケージ化することにより、団体の広報支援となっているが、年1回のため、実施以降、団体の活動理解者や参加者を増やす必要がある。



高等教育機関公開講座 共催事業 【市民活躍支援課】

【概要】大学・短大・高等専門学校が、市内の公共施設を会場に市民に専門的な生涯学習機会を提供

【R3実績】愛知県立大学／藤田医科大学／豊田工業高等専門学校

<課題など>

- ・現在の形態で15年以上が経過しているが、大学からの依頼があったうえでの実施となっており、講座が定例化しつつある。
- ・オンライン学習の普及などもあり、リカレント教育の場として高等教育機関と連携していく可能性を探る必要がある。



■ 高齢者施策に関する主な取組【各種事業】

ずっと元気！プロジェクト【未来都市推進課】

【概要】官民連携（SIB：ソーシャルインパクトボンド）を活用した介護予防
 【内容】趣味や教養、就労などにより65歳以上が他者や社会とつながる機会を生み出すプログラムを提供。
 約1,700人が参加（2022年3月末時点） 35事業者／44サービスを展開（2022年3月末時点）



社会参加WG【福祉部・保健部・生涯活躍部】

【概要】超高齢社会への適応のため、「高齢者の社会参加」の促進のため、部局間連携のプロジェクトチームを立ち上げ、
 【内容】集いの場の資源把握、地域資源マップの構築、集いの場へのコーディネート など（2020～）

◎ 集いの場の資源把握
 高齢者の集いの場の調査
 ※介護保険課・高齢福祉課

◎ 地域資源マップの構築
 ICT等を活用した情報の集約・発信のシステム導入
 ※地域包括ケア企画課・情報戦略課・企画課

◎ 集いの場へのコーディネート
 集いの場へのコーディネート
 ※高齢福祉課（地域包括支援センター）・市民活躍支援課（交流館）・地域保健課（健康相談等）・地域支援課・猿投支所（福祉の窓口等）

1. 調査の目的

- 本調査は令和3年度から5年度までの高齢者福祉や介護保険の方向性を定める「第8期豊田市高齢者福祉計画・介護保険事業計画」の策定を行うにあたり、策定の基礎調査とするために実施しました。

2. 調査対象

高齢者	要支援・要介護認定等を受けていない65歳以上の市民 （無作為抽出）
要支援者等 （要支援・事業対象者）	要支援認定者及び総合事業の対象者（無作為抽出）
要介護認定者	要介護認定者（無作為抽出）
事業所 （介護サービス事業所）	市内の介護サービス事業所（全法人）
ケアマネ （ケアマネジャー）	市内の居宅介護支援事業所のケアマネジャー（各事業所に2枚ずつ）

3. 調査の方法・回収結果

- 郵送配布・郵送回収
- 調査基準日 令和元年10月1日
- 令和元年11～12月に実施

	配布数	有効 回答数	有効 回答率	主な調査項目
高齢者	3,000	2,158	71.9%	属性、日常生活、社会参加、生きがいや楽しみ、住まいや医療・看護、高齢者福祉
要支援者等	2,000	1,290	64.5%	属性、日常生活、社会参加、生きがいや楽しみ、高齢者福祉
要介護認定者	2,000	1,136	56.8%	属性、施設での生活、在宅での生活、主な介護者、高齢者福祉
事業所	161	125	77.6%	法人について、運営、介護職員の人材、業務の効率化・生産性向上、地域での活動、高齢者福祉
ケアマネ	73事業 所に2枚	105	—	法人・回答者の属性について、業務やケアプラン、多職種連携・研修、高齢者福祉

令和元年度高齢者等実態調査など（抜粋）

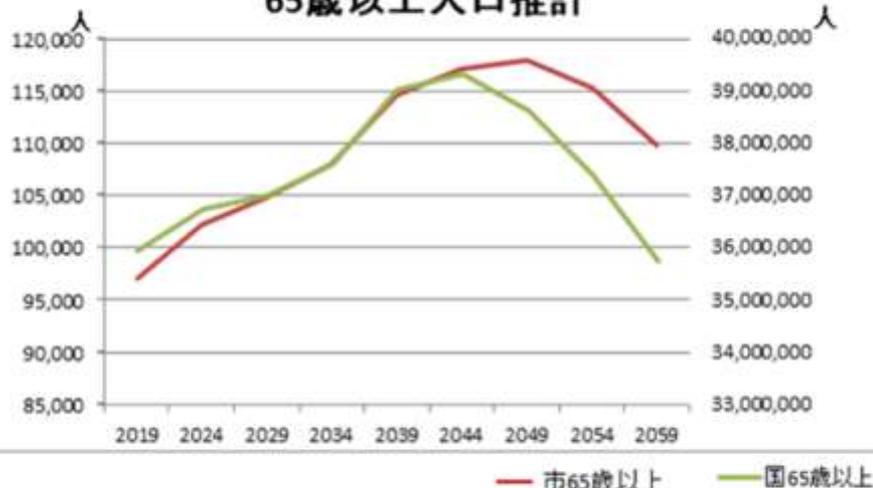
高齢者人口

- ・今後、団塊ジュニア世代が高齢者になると高齢者人口がピーク
- ・国は2045年頃にピークを迎え、豊田市は5年ほど遅れてピークを迎えることが予想される。その後は減少に転じる

後期高齢者（75歳以上）の増加

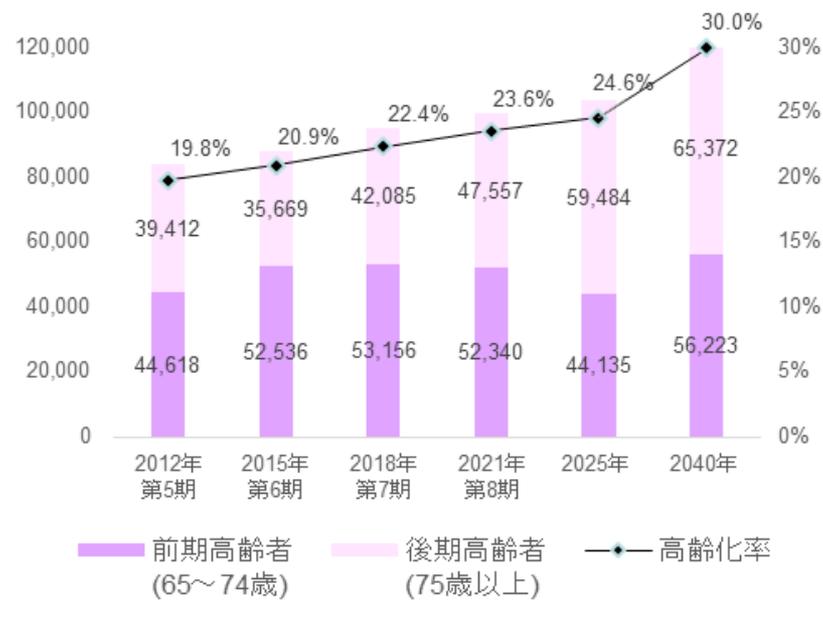
- ・本市の高齢化率は右肩上がりです
- ・今後、介護ニーズが高い後期高齢者が増加し、前期高齢者の数を逆転する見込み

65歳以上人口推計



出典 国：国立社会保障・人口問題研究所 2017
豊田市：豊田市2020

高齢者数と高齢化率の推移



出典 豊田市：豊田市資料

会・グループへの参加状況

【問：以下の会・グループにどのくらいの頻度で参加していますか。（N=2,158）】

- ・「週1回以上」において、「収入のある仕事」「スポーツ関係のグループやクラブ」「趣味・文化活動関係のグループ」の順に高い傾向。
- ・「年に数回」において、「自治区・町内会」が16.8%と高い傾向。

- ・「月1回以上」において、男性は「収入のある仕事」、女性は「趣味・文化活動関係のグループ」の割合が他と比べて高い傾向
- ・年齢別では、65～74歳は「収入のある仕事」、75歳～84歳は「趣味・文化活動関係のグループ」の割合が他の年代と比べて高い傾向。



○「月1回以上」の割合

単位：%

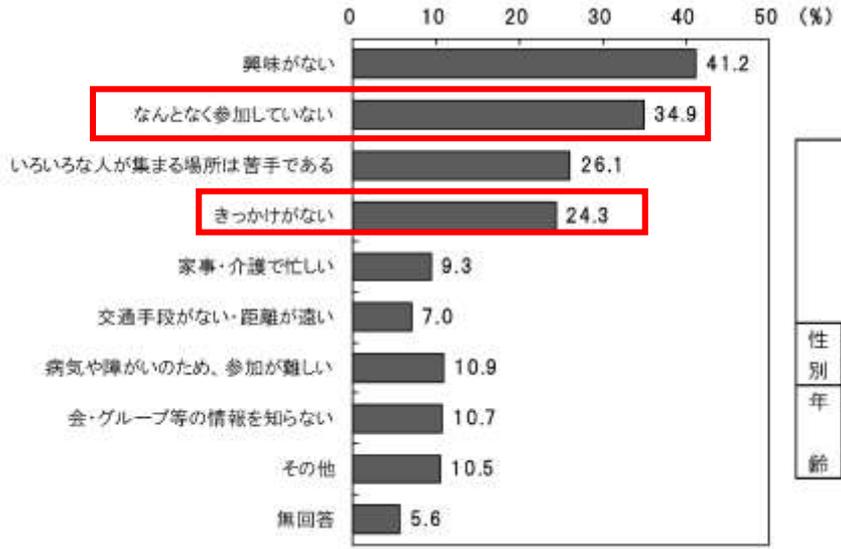
性別	年齢	n	スポーツ関係のグループ	趣味・文化活動関係のグループ	高齢者クラブ	サロン・健康体操	自治区・町内会	ボランティアのグループ	収入のある仕事
			男性	1,090	22.4	19.5	9.1	4.8	12.9
女性	1,059	27.5	32.9	8.8	13.5	8.9	9.2	17.9	
年齢	65～74歳	1,312	25.1	25.4	5.0	7.5	11.2	9.5	27.9
	75～84歳	710	25.5	29.7	15.6	11.5	11.0	9.2	13.2
	85歳以上	131	18.3	13.0	11.5	10.7	7.6	2.3	5.3

会・グループに参加していない理由

【問：会・グループ等にあまり参加していない理由をお聞かせください。（N=782）

※会・グループ参加について、「週1回以上」「月1～3回」に「○が1つもない」方対象

- ・「興味がない」は41.2%と最も高い。次いで「なんとなく参加していない」が34.9%、「色々な人が集まる場所は苦手である」が26.1%、「きっかけがない」が24.3%となっている。
- ・性別で見ると、男性は「興味がない」「なんとなく参加していない」の割合が高い傾向。



単位：%

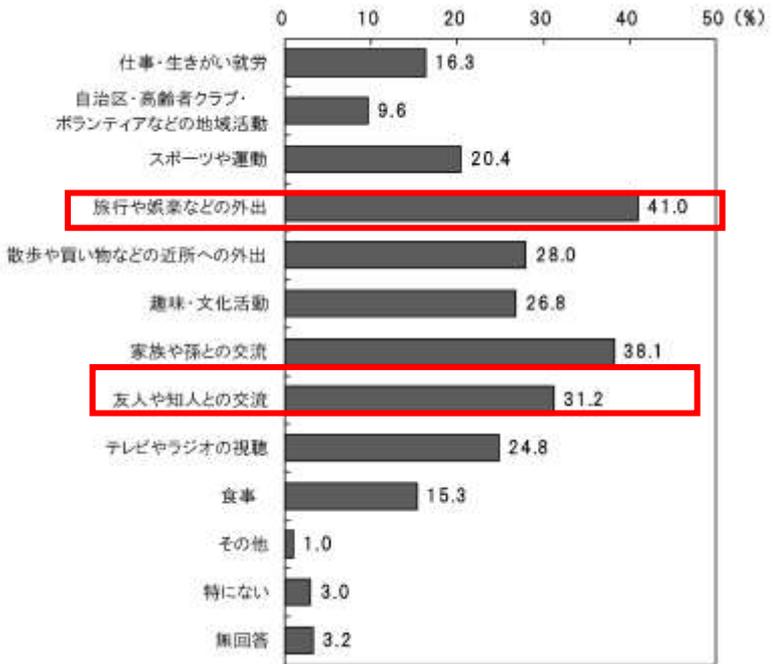
	n	興味がない	なんとなく参加していない	色々な人が集まる場所は苦手である	きっかけがない	家事・介護で忙しい	交通手段が遠い	病気や障がいのため、参加が難しい	会・グループ等の情報を知らない	その他	無回答
性別 男性	421	49.9	37.1	25.4	25.9	5.9	3.6	11.4	12.8	7.8	6.4
性別 女性	354	30.8	32.5	27.4	22.6	13.0	10.7	10.2	8.2	13.8	4.8
年齢 65～74歳	445	44.7	34.2	27.0	25.8	11.2	4.9	7.9	11.5	10.3	4.0
年齢 75～84歳	268	35.4	36.9	27.2	22.4	7.8	9.7	14.2	9.7	9.3	7.8
年齢 85歳以上	67	40.3	29.9	14.9	20.9	3.0	10.4	17.9	9.0	16.4	7.5

生きがいや楽しみ

【問：あなたが、生きがいや楽しみを感じるのはどんなことですか。（N=2,158）】

・「旅行や娯楽などの外出」(41%)、「家族や孫との交流」(38.1%)、「友人や知人との交流」(31.2%)の順に高くなっている。

・男性は「仕事・生きがい就労」「スポーツや運動」、女性は「家族や孫との交流」「友人や知人との交流」「散歩や買い物などの近所への外出」の割合が他と比べて高い傾向。
 ・年齢別でみると、65歳～74歳で「旅行や娯楽などの外出」「家族や孫との交流」、85歳以上で「テレビやラジオの視聴」の割合が他と比べて高い傾向。



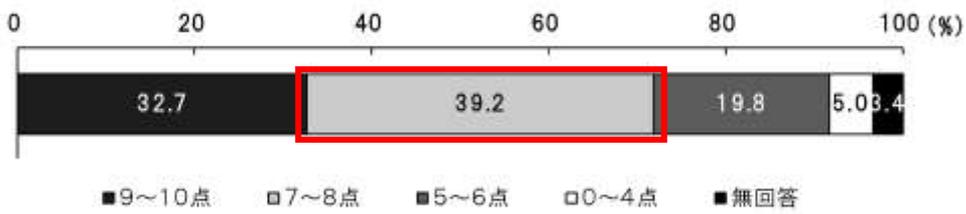
性別	年齢	幸福度	n	仕事・生きがい就労	自治区・高齢者クラブなどの地域活動	スポーツや運動	旅行や娯楽などの外出	散歩や買い物などの近所への外出	趣味・文化活動	家族や孫との交流	友人や知人との交流	テレビやラジオの視聴	食事
				単位:%	単位:%	単位:%	単位:%	単位:%	単位:%	単位:%	単位:%	単位:%	単位:%
男性			1,090	20.4	10.6	24.6	41.7	22.3	27.2	33.9	23.0	26.8	14.3
女性			1,059	12.1	8.6	16.2	40.1	33.9	26.5	42.7	39.7	22.9	16.2
65～74歳			1,312	19.1	8.8	22.8	47.3	24.8	27.9	41.5	31.6	21.0	13.1
75～84歳			710	12.1	11.3	17.6	33.0	32.7	28.0	33.7	31.4	29.4	18.0
85歳以上			131	11.5	9.2	9.9	20.6	34.4	10.7	29.0	27.5	36.6	22.9
9～10			705	21.6	10.8	23.0	46.2	26.8	31.1	44.5	33.5	18.5	16.3
7～8			846	15.6	12.2	23.5	45.0	27.5	28.7	40.1	35.0	26.1	13.1
5～6			427	12.4	5.4	17.6	33.7	35.1	21.3	31.4	26.2	32.8	19.9
0～4			107	9.3	4.7	3.7	28.0	25.2	20.6	26.2	21.5	34.6	14.0

現在の幸福度

【問：あなたは、現在どの程度幸せですか。（N=2,158）】

※とても幸せを10点、とても不幸を0点として回答

- ・「7～8点」が39.2%と最も高く、次いで「9～10点」が32.7%
- ・「9～10点」の割合が比較的高いのは、「女性・85歳以上、健康がとてもよい、外出・会話・社会参加の頻度」が高い人。



単位:%

		n	9 1 0	7 8	5 6	0 4	無 回 答
性別	男性	1,090	27.8	40.2	22.5	6.4	3.1
	女性	1,059	37.8	38.1	17.0	3.4	3.7
年齢	65～74歳	1,312	30.6	42.3	19.4	5.0	2.7
	75～84歳	710	35.1	35.8	20.0	5.1	4.1
	85歳以上	131	39.7	26.7	22.9	4.6	6.1
健康	とてもよい	283	60.1	25.8	10.6	1.4	2.1
	まあよい	1,541	31.3	43.3	18.2	4.0	3.1
	あまりよくない	276	17.0	31.9	32.6	12.7	5.8
	よくない	44	9.1	27.3	40.9	15.9	6.8
外出頻度	週に5日以上	1,050	35.6	41.0	17.3	3.5	2.5
	週に2～4日	859	30.6	39.7	20.4	5.6	3.7
	週に1日	158	29.1	34.8	24.7	7.0	4.4
	ほとんど外出しない	75	28.0	18.7	34.7	10.7	8.0
会話頻度	週に5日以上	744	42.2	37.0	15.1	2.6	3.2
	週に2～4日	878	30.0	43.2	19.0	5.1	2.7
	週に1日	279	24.7	39.4	26.2	6.1	3.6
	ほとんど会話しない	237	22.8	32.5	28.3	10.5	5.9
参加	週1回以上参加	884	38.2	43.9	13.9	2.8	1.1
	月1回以上参加	428	35.5	41.1	19.4	2.8	1.2
	参加は月1回未満	782	26.9	34.5	27.9	9.0	1.8

令和元年度高齢者等実態調査など（抜粋）

調査から見えるポイント

会・グループで活動をしている人は幸せ感が高い傾向 【社会とのつながりが重要】

・スポーツ、趣味・文化、高齢者クラブ、サロン・健康体操、ボランティアなど

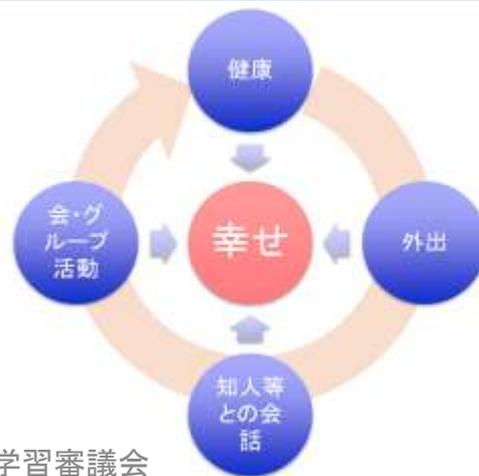
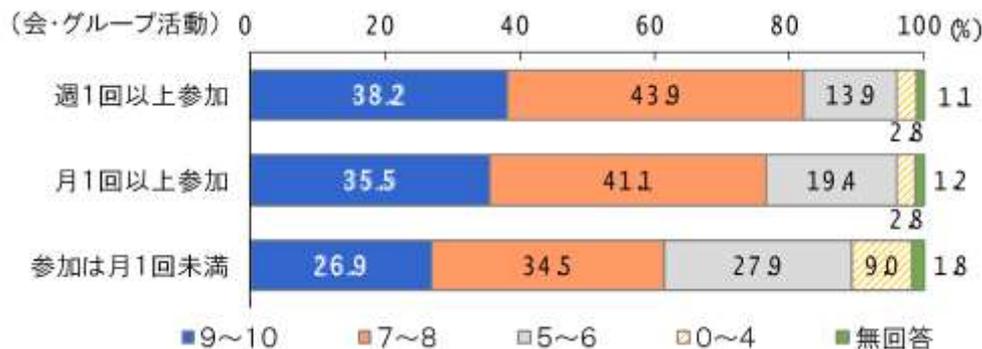
「社会参加」に関する要素は多種多様

・高齢者が**自分に合ったものを、無理なく続けられ、社会の一員として、役割をもって生きている、自分は社会とのつながりがある**ことを実感できることがポイント

・幸せ感には「健康」「外出」「知人等との会話」「会・グループ活動」がカギで、それらは相互に関係しあっている。

・健康以外に社会参加も健康と同様に重要であることの周知が必要

・行政サービスだけでなく、民間サービスを含め自分に合ったものを無理なく続けられる「社会参加」を促進し健康や幸せにつなげていくことが必要



■ 中高年齢者の就労支援について

中高年齢者本人の状況やニーズに合った活躍支援を行うとともに、中小企業の人材確保に向けたマッチングを強化するため、企業訪問を通して、中高年齢者の雇用に関するニーズ把握と中高年齢者向け求人の開拓を行うことを目的に実施

企業訪問

訪問企業数：141社 / 漁業・鉱業・情報・金融・公務の業種以外を満遍なく網羅
企業規模：10名～300名程度が8割

- ・ 約7割の企業がスキル（経験）や資格をもつシニアの労働力をパートとしての活用を期待。
 - ・ 企業側がシニアに抱く不安→体力面が7割
- 中小企業において、シニアに対する求人ニーズがある**

シニア世代と企業の交流会

令和3年度（11/1・2/4）
出展企業数：13社 / 来場者：12名

シニアのための企業見学会

・ 令和3年度（11/18・11/20・12/9）
見学企業数：3社 / 来場者数：5名

- ・ 交流会への参加をきっかけに就労へのマッチングに繋げることができたが、参加企業に対して求職者の参加が少ない傾向。
- 求人者側の期待と求職者のニーズに乖離がある可能性がある**

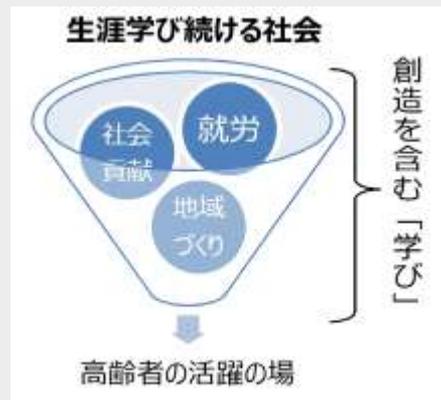
■平成30年度・令和元年度の審議会について（報告）

平成30年度・令和元年度 生涯学習審議会での議論の方向性

- 「生涯学び続ける社会」における高齢者の活躍とは
 - ・「学び」とは、単に知識の獲得ではなく、地域づくりなど「創造」につながるもの。
 - ・「活動・実践」とセットであり、「就労」も「社会貢献」も「学び」の一つと考える。
 - ・高齢者の活躍支援では、多世代交流の視点が大切。「きっかけづくり」を支援する。



- ア 高齢者の就労ニーズへの対応
- イ 「受皿」を意識した事業展開
- ウ 「きっかけづくり」につながる情報提供



市民活躍支援課の具体的な取組

● 交流館と学校（地域学校共働本部）の連携

→ 交流館と地域学校共働本部の共働事業の強化

- ・学校側のニーズと交流館地域カルテの地域資源を各地区で共有・情報交換し、モデル地区で連携事業を実施。

● 交流館とシニアアカデミー事業の連携

→ シニアアカデミーによる学びを実践につなげる取組（地域・交流館へのつなぎ）

- ・「一般講座」の共通カリキュラムで、交流館自主グループでの活動体験を実施
- ・「専門コース」で行政・民間ニーズに応える実践的な「シニア人材育成事業」実施

● きっかけづくりにつながる情報提供

→ 「シニア活躍事例集」の作成

- ・「セカンドライフ・チャート」の次の展開として、活動に一步踏み出した方の「きっかけ」ややりがい、楽しさなどの体験談を取材・紹介する冊子を作成。



地域学校共働本部×交流館【学校教育課・市民活躍支援課】

【概要】

多世代交流の視点・生涯学び続ける社会における高齢者の活躍につなげるため、学校側のニーズと交流館等がもつ地域資源情報を共有し、地域の特性に合わせて連携を行った。



【若園地区】<若園中学校共働本部×若園交流館>

合築を見据えた共働本部と交流館の連携促進（既存の連携強化）

- 地域学校共働本部（豊田市独自の名称）と交流館による中学生ボランティア制度が活発である。コロナ禍において、地域コーディネーターと交流館職員が連携し、中学生と地域が関わる機会を創出し、交流館主催のコンサートのプログラム台紙づくり、シトラスリボンの取り組み、地域の伝統をふまえた俳句募集事業などを展開。「ボランティア講座：トライ★やる ボラ若園」
- 運営の工夫・・・活動に先がけて中学校でのオリエンテーションでボランティアの心構えを学んだ後に、希望者がボランティアの登録を行う。中学生の自主性や積極性を尊重し、求人票を提示して、自分で応募する形としている。

【その他地区での連携】 ほか、各地区で交流館が共働本部と連携・コーディネートしながら事業を展開している。

- 益富地区・・・共働本部地域コーディネーターと交流館職員との交流（連携を探るための場 ※益富サロン）
- 稲武地区・・・交流館が地元企業のボラ団体と共働本部の連携をコーディネート（プログラミング×ものづくり教室）
- 豊南地区・・・交流館と共働本部が連携し、中学生がボラ活動をとおして卒業後も地域で活動するためのきっかけを提供（地域の担い手事業：おたすけスタッフJr.）

<課題感>

- ・両者（共働本部・交流館）が密接な関係である地域とそうでない地域が存在するため、連携状況が様々。
- ・地域コーディネーター、交流館職員の経験の違いで連携の差が生じる。
- ・学校支援の要素が強いため、連携ニーズに偏りが生じている。